

今週のメニュー

■トピックス

◇環境展示会“エコプロ 2016～環境とエネルギーの未来展”に出展

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(22)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇環境展示会“エコプロ 2016～環境とエネルギーの未来展”に出展

昨年12月8日から10日までの3日間、エコプロ 2016～環境とエネルギーの未来展（(一社)産業環境管理協会、(株)日本経済新聞社主催）が、東京ビッグサイト東ホールで開催されました。今年の出展者数は705社・団体、入場者数は約17万人となりました。弊協会ブースには約7,000名を超える方々の来場がありました。

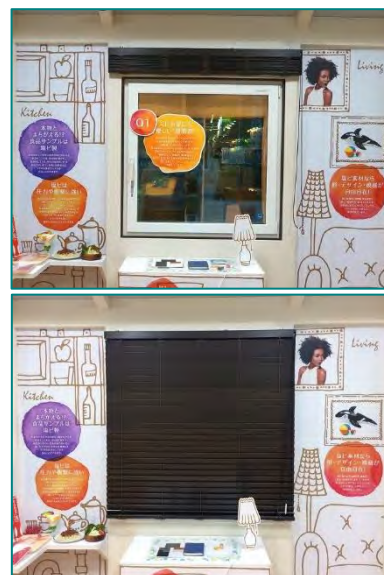
区切りとなる10年連続出展となる今年は、「家」というわかりやすいモチーフから入り、屋内外で使用されている身近な塩ビ製品を展示・紹介し、リサイクル品を含め塩ビがどのような特長で循環型社会実現に貢献出来るかアピールしました。ここで、ご来場頂けなかった方々へブースと展示品を簡単にご紹介いたします。

今年は、ブース内に「家」をつくり、屋内外で使用されている様々な塩ビ製品を展示物としてそのまま使い、来場頂いた方々によりイメージして貰いやすいデザインとしました。それぞれの塩ビ製品の近くには、何故塩ビが使われているか、その理由を分かりやすく説明し、全体に統一感があり、明るいブースに仕上がりました。

屋内では“樹脂窓”をはじめ、最近需要が増えている“樹脂製ブラインド”、昔から根強い需要がある“アコーデオンカーテン”など住宅建材で使用されている様々な塩ビ製品や塩ビ製レザーを使用した“ソファ”などを展示、また身近でありながら意外と知られていない“塩ビ製ラップフィルム”を、実際に使われている生鮮食品のトレー包装した状態で展示しました。



VEC/JPEC ブース



上：樹脂窓
下：樹脂製ブラインド

屋外には“雨どい”、“ガーデンホース”や、間伐材を使った“デッキ材”、雨の日に活躍している“レインブーツ”を展示しました。



アコーディオンカーテン 他

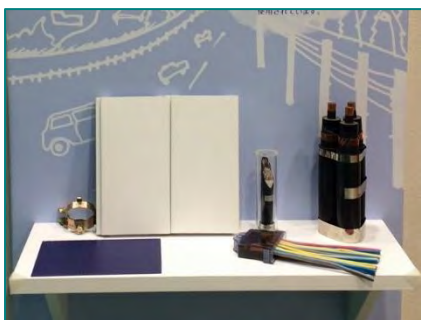


塩ビ製ラップフィルム、
食品サンプル



雨どい、ガーデンホース
デッキ材、レインブーツ 他

また、左側の庭をイメージしたエリアでは、身近なところで我々の生活を支えている“電線”、“血液バッグ”や錠剤やカプセルの梱包で使用される“PTPシート”、30年以上埋設された“塩ビパイプ”とそれを使った“リサイクル管”、更には実際にオリンピックの柔道競技でも使用された“塩ビ製畳”、仮設施設などで使用される“塩ビ製ターポリン”も展示しました。



電線 他



血液バッグ、PTPシート 他



塩ビパイプ、リサイクル管



“PVC Design Award 2016”
受賞作品

奥のエリアには、「PVCの新しい展開」として、「PVC Design Award 2016」大賞の“とびだすおふる”などの大賞、優秀賞、入賞の作品を中心に、塩ビの新しい可能性を追求した作品を紹介しました。

クイズラリーと一緒にアンケートを取ったところ、PVC製品が身近なところで使われていることは何となく知っていた方々が殆どで、今回の展示物を見て一番印象に残ったのは「環境にやさしい」(来場者の46%)、「丈夫なもの」(38%)で「意外なものに使用されている」(30%)という意見を頂きました。

来場して頂いた多くの方々からは、「これ、家にある!」、「これも塩ビ製なの?」、「何で、塩ビで作られているの?」などの多くの意見を頂き、塩ビ製品がこんな身近なところで、様々な用途で、たくさん使用されていることをご理解頂けたと感じております。

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(22)

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回、史料の中に伊勢氏を求め、彼等が伊勢地方の土着の豪族ではなかったことが分かってきた。今回は、彼等が天皇家に繋がる貴種であったことを明らかにする。

次に伊勢国造家の大和朝廷との関係であるが、敏達天皇四年(五七四)正月の条に、伊勢大鹿首おほかのおびとおぐまむすめの女である菟名子うなこが敏達天皇の夫人となり、二人の皇女を生んだとの記載がある。その内の一人が糠手あらてのひめみこ姫皇女で、この皇女は舒明天皇の母となっている。この菟名子は采女として仕えていたとされているが、このような記述が事実とするなら、これは破格のことである。天皇夫人の父親の姓が首おびと程度あり、そこから推古天皇の後の舒明天皇が誕生したというのは普通では考えられないことだからである。このことから、伊勢大鹿首こそ伊勢国造だった可能性が高いといえる。後の伊勢国造家が最初に伊勢に入るようになった経緯として、ヤマト政権或いは倭王に繋がるものとしたが、このことが敏達朝になって急に再認識されるようになったのかもしれない。これまでの検討から彼らが出雲系である可能性は高く、このことが、舒明天皇の誕生につながった可能性は有り得よう。要するに、伊勢大鹿首は土着の豪族おおかが成り上がったといった人物ではないということである。

この伊勢大鹿首おおかと、この後の伊勢朝臣氏との関係がどうなっているかについて、少し検討しておきたい。そのために『続日本紀』に出てくる彼らの主要記事を見てみることにする。

- 天平十年(七三八)九月、伊勢国飯高郡の人で無位の伊勢直族やからおおえ大江に外従五位下を授けた。
- 天平十九年(七四七)十月、伊勢国人従六位上伊勢直大津等七人に中臣伊勢連の姓を賜った。
- 天平勝宝元年(七四九)四月、聖武天皇は宣命の中で、功績のある人物として三国真人・石川朝臣・鴨朝臣・伊勢大鹿首を挙げ、位階を上げるべき人々とした。
- 天平勝宝元年(七四九)五月、正六位上伊勢連大津に外従五位下を授けた。
- 天平宝字八年(七六四)九月、従六位下中臣伊勢連おきな老人に従四位下を授け、更に中臣伊勢朝臣の姓を賜った。
- 天平神護二年(七六六)十二月、外従五位下中臣伊勢連大津に、伊勢朝臣の氏姓を賜った。
- 神護景雲元年(七六七)八月、参河守従四位下伊勢朝臣老人に従四位上を授け、造西隆寺(東大寺に対する尼寺)長官に任じた。
- 神護景雲二年(七六八)六月、従四位上・外衛中将兼西隆寺長官・参河守勳四等伊勢朝臣老人を本国の国造に任じた。
- 延暦元年(七八二)閏正月、散位正四位下伊勢朝臣老人、現職を解任。川継事件に連座したためである。
(氷上川継ひかみのかわつぐは天武天皇の曾孫、母は聖武天皇の娘という血統であることから、新帝桓武を廃して川継を皇位に即けようとする陰謀があったとされる。)

- 延暦七年(七八八)二月、正四位下伊勢朝臣老人を遠江守に任じた。
六月、正四位下伊勢朝臣老人を木工頭もくのかみに任じた。
- 延暦八年(七八九)四月、木工頭・正四位下伊勢朝臣老人おきな卒す。

このような正史における記事から、次のようなことが明らかとなってくる。

- ① 八世紀当時、伊勢氏には主要な三系統の勢力が存在していた。即ち、伊勢直族大江、伊勢直大津及び伊勢連老人おきなである。これら三氏は同族とみられるが、大江は飯高郡の人とされており、伊勢国としては南部に当ることから、他の二者とは距離を置いた勢力だったとみられる。
- ② 伊勢直族大江やからおおえに対する無位からの外従五位下の叙位は破格である。最も低い外少初位下からすればこの外従五位下は十七階級ほどの特進に当り、何故このような取り扱いを受けたのかは謎である。しかし、この叙位は聖武天皇時代のことであり、その天皇が天平勝宝元年(七四九)四月の宣命のなかで、二百年も昔の伊勢大鹿首のことを称揚していることから、これに連なる氏族として、このような破格の叙位が行なわれた可能性がある。
- ③ 伊勢直大津及び伊勢連老人おきなが朝臣の姓を賜ったのも破格のことである。姓の最高位である真人は皇族・皇裔に当るものしか与えられていないことから、これは別格でありこれを除くと、実質的には朝臣が最高の姓となる。天武十三年に五十二氏に対して朝臣の姓が授けられたが、伊勢氏より遥かに著名な大伴氏等が外されている。これほどの姓を一地方の豪族に過ぎない伊勢氏に賜姓されるということは、伊勢氏の遠祖が、時の大和王家に繋がる貴種であったとでも考えない限り説明がつかない。
- ④ このような伊勢氏が、一時期、中臣氏に近づいたと見られることは不思議である。彼らの氏名の冠に付いていた「中臣」が七六〇年代になって無くなっているのは、その頃、中臣氏との関係が切れたことを表わしていると思われる。七世紀末頃から荒木田氏が中臣氏との間に擬制的同族関係を結び、これによって内宮の神主の座を仕留めたとされていることから、新しい権力者の中臣氏に近づかなければならぬ何かの理由が伊勢氏側にあった可能性がある。その時期は恐らく八世紀前後からと見られるが、天平九年(七三七)に天然痘といわれている流行病で、藤原武智麻呂・房前・宇合・麻呂の不比等の四兄弟が相次いで亡くなった。これで橘諸兄が台頭してくることになるが、混乱の時代が始まったことには間違いなく、伊勢氏が八世紀中葉になって、中臣氏との関係解消に動いたとしてもおかしくは無い。なお、彼らが「中臣」を賜るのは、四兄弟の死後となっているが、状況の変化にも拘らず何らかの理由で、彼らは「中臣」を必要としていたと考えられる。
- ⑤ 記録からみて伊勢朝臣老人の中央政界での活躍は目覚しく、神護景雲二年(七六八)六月に伊勢国造に任じられていることは注目される。このことは、当時伊勢国造の地位は空位となっていたのか、前任者がいたのかどうかは分からない。しかし、国造は国司と異



伊勢神宮 内宮

なり、土着の豪族が任じられることが一般的とされていることから、伊勢老人家が代々国造を務めていた可能性が高いと云えよう。このように考えると伊勢朝臣老人は伊勢大鹿首小熊の孫、即ち、伊勢本宗家ということになる。この伊勢氏の系譜の中で、伊勢大鹿首から伊勢連老人への関係は史料的には明らかになっていないが、以上のような検討からこの系譜は繋がっているとみられる。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

明けましておめでとうございます。

私事ですが、今年3月に還暦を迎えます。VECに出向して丸6年、会社では経験できない様々な仕事をさせていただき、塩ビ業界のみならずサプライチェーン全体の方々と知り合いになれ貴重な人脈もできました。ここまで無事に努めて来られたのもひとえに皆様のお陰とこの場をお借りし感謝申し上げます。

本年も、編集員一同メルマガを通じてトピックスでは塩ビの最近の状況を配信して参ります。皆様からも是非塩ビに関する話題の提供をお待ちしております。また、随想でも、趣味、研究内容など塩ビに関わらず募集しておりますので、是非紹介したいという方は編集部までご連絡いただければと存じます。それでは、塩ビ業界にいい風が吹きますよう祈念して、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(ももった)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp